

今年札幌で開催された「ジュニア農芸化学会2016」では、高校生対象の研究発表会の中で、マヌカハニーの整腸作用を示したユニークなポスター発表があった。マヌカハニー製品の国内販大手である(株)コサナ(東京都中央区)の寺尾啓二社長も「大変興味深い研究」と捉え、グループ会社の(株)シクロケムのホームページで取り上げている。

ジュニア農芸化学会で発表

高校生がマヌカ蜂蜜を研究 整腸作用を確認

その研究は、埼玉県の山村国際高等学校生物部に通う高野美穂さん(2学年)が実施した。マウスを6群に分け、5群にそれぞれ1日1回、マヌカハニーを10〜15μg摂取し、糞便中の菌を培養した後、糞便中の腸内フローラ解析を行った。その結果、マヌカハニーを10〜15μg摂取した群は、腸内善玉菌数が同悪玉菌数よりも多くなった。特に10μg摂取群では、腸内フローラに占める善玉菌の割合が約54%となり、山村さんは「日和見菌+悪玉菌」とのバランスを改善したと示した。

また、マヌカハニー10μg摂取群と乳酸菌摂取群の比較では、マヌカ摂取群は乳酸菌摂取群よりも善玉菌数が約2倍多く、悪玉菌数は約半分だったことを確認している。

なお、研究題名は「マヌカハニーの Maus 腸内フローラに及ぼす影響」マヌカハニーは腸内フローラの悪玉菌をやっつけた。